

3D_MAKER200 Win 取扱説明書

Ver.1.1.0

2017年11月
(200-007)

取扱上の注意

本ソフトウェアのご使用にあたり、以下の点にご注意ください。

- インストールが終了するまで、 dongleキーをパソコンに接続しないでください。
- dongleキーの再発行は致しかねます。取扱には十分にご注意願います。
- 本ソフトウェアを dongleキーなしで使用した場合、ビューワとして動作します。ビューワとなった場合、 dongleキーが正しくセットされているかご確認ください。
- 本ソフトウェアは、ハンディサーチ NJJ-200(日本無線(株)社製)の仕様および特性に合わせて調整しております。他のデータの処理はできません。
- 比誘電率の解析性能は、装置や測定結果に大きく左右されます。また、解析の比誘電率分解能は 0.1 となっております。解析終了後、正しくフォーカスが合うように比誘電率の値を調整してください。
- dongleキーの LED が点滅しているときはパソコンから外さないでください。
*Windows8.1 および 10 に接続された場合、LED 点灯後、消灯します。
- 本ソフトウェアを使用した結果の影響による損失については、一切の責任を負いかねます。

目次

1	はじめに	- 1 -
1.1	新機能のご紹介	- 1 -
1.2	対象データ	- 1 -
1.3	動作環境	- 1 -
2	インストール	- 2 -
2.1	セットアップ準備	- 2 -
2.2	アンインストール	- 2 -
3	dongルキーのデバイス確認	- 2 -
4	画面構成	- 3 -
4.1	反射強度表示部	- 4 -
4.2	深さ表示部	- 4 -
5	メニュー構成	- 5 -
6	3次元データの読み込み・保存	- 6 -
6.1	3次元データ拡張子[.r3d7]について	- 6 -
6.2	3D_MAKER200 And 探査データの位置関係について(V00_H00)	- 6 -
7	NJJ-200Ex アプリケーションでの探査方法と探査データの保存	- 7 -
7.1	探査時の注意事項	- 7 -
7.2	探査シートの用意	- 7 -
7.3	保存データファイル	- 8 -
7.4	探査データ保存	- 8 -
8	NJJ-200Ex アプリケーションの探査・保存データ・ファイル読み込み	- 10 -
8.1	断面データ読み込み	- 10 -
8.2	3次元データ保存・読み込み	- 11 -
8.3	表層の空隙(可視化)合成画像	- 12 -
9	解析時の注意事項	- 12 -
10	イメージの保存	- 13 -
10.1	クリップボードにコピー	- 13 -
10.2	保存	- 13 -
10.3	印刷	- 14 -
11	Windows10 にインストールできない場合の.NET Framework 設定方法	- 15 -
12	連絡先	- 18 -

1 はじめに

- 本ソフトウェアは日本無線(株)社製のハンディサーチ NJJ-200 を使用して、NJJ-200Ex アプリケーションと 3D_MAKER200 And アプリケーションで探査・保存した、探査データおよび拡張子「.r3d7」データを平面的に画像合成するソフトウェアです。
- 3D_MAKER200 Win.Ver.1.1.0.0 より NJJ-200Ex アプリケーションで探査保存したデータを平面的に画像合成する機能を追加しました。

※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

1.1 新機能のご紹介

- 任意の場所でスライスした平面合成画像を表示できます。
- カーソルの動きに合わせた B モード画像、A モード画像を表示できます。B モード、A モード画像はマイグレーション処理結果と切り替えができます。
- コア抜きのイメージを表示できます。
- ドングルキーがなくてもビューワとして動作します(比誘電率値の変更はできません)。
- NJJ-200Ex アプリケーションで探査・保存したデータを平面的に画像合成する機能を追加しました。

1.2 対象データ

- 日本無線(株)社製ハンディサーチ NJJ-200 で 3D_MAKER200 And アプリケーションにより探査保存された拡張子[r3d7]データの 3 次元データ。
NJJ-200(3D_MAKER200 And アプリケーション保存[r3d7]データ)
- 日本無線(株)製ハンディサーチ NJJ-200 で NJJ-200Ex アプリケーションにより探査保存されたデータ。
NJJ-200(NJJ-200Ex アプリケーション保存[KHS]データ)

1.3 動作環境

以下の環境で動作します。

OS Microsoft Windows Vista, 7, 8, 8.1, 10
Microsoft .Net2.0 以上

*Windows10 は.NET Framework の設定が必要な場合があります (詳細は 15 ページ参照)。

*Windows Phone, Windows Mobile 系の PC タブレット(スマートフォンを含む)での動作保障はしていません。

CPU Dual Core 以上を推奨します。

メモリ 512MByte 以上を推奨します。

PDF ファイルを使用します。PDF ビューワをご用意ください。

2 インストール

2.1 セットアップ準備

①インストールが完了するまでは、 dongleキーをセットしないでください。

②インストール Disc の[Setup.exe]を実行してください。

インストールディスクにある「Setup.exe」を実行します。

Microsoft .Net がインストールされていない場合、インストール中に再起動をすることがあります。.Net インストール完了後、再度本アプリケーションのインストールから行ってください。

インストール終了後、パソコンを再起動させてください。

以上でインストールは完了です。

※Windows10 にアプリケーションのインストールができない場合、.NET Framework の設定が必要になります。詳細は 15 ページの[11.Windows10 にインストールできない場合の.NET Framework 設定方法]参照願います。

2.2 アンインストール

Windows のコントロールパネルにある、プログラムのアンインストールから行ってください。

3 ドングルキーのデバイス確認

① ドングルキーをパソコンに接続すると、新しいデバイスとして自動的に認識されます。

② PC に複数の USB ポートが装備されている場合でも、個々のポートに USB キーを初めて挿入したときに自動的に認識されます。

*初めて USB ポートに挿入した場合、認識されるまで数秒から数十秒かかります。

* dongleキー本体を USB ポートに接続しますと、ストラップホルダーの LED ランプが緑色に点灯します(Windows8.1 および 10 は緑色の LED ランプ点灯後、消灯します)。

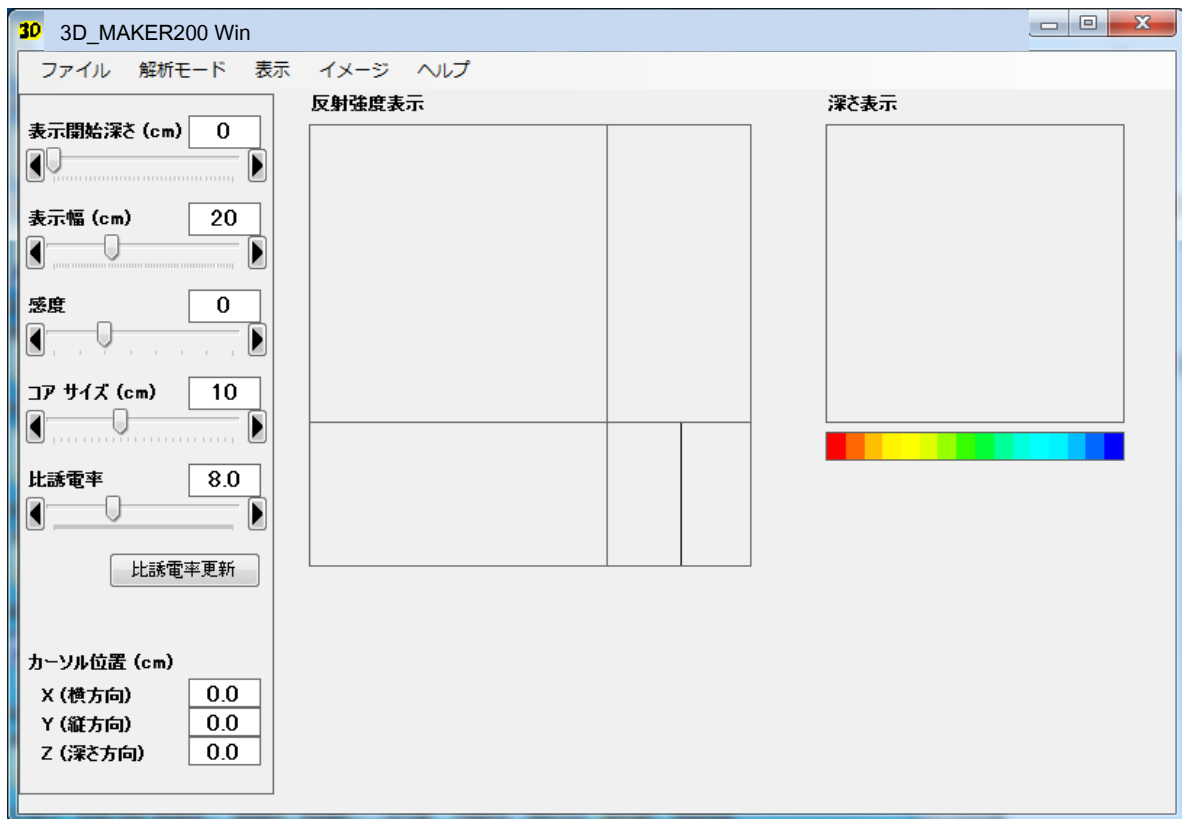
※ dongleキーをパソコンに接続、認識された状態で全ての機能が使用できるようになります。



LOCK STAR ドングルキー

4 画面構成

ソフトウェアを起動すると、下の画面が表示されます。



コントロール部

反射強度表示部

深さ表示部

コントロール部

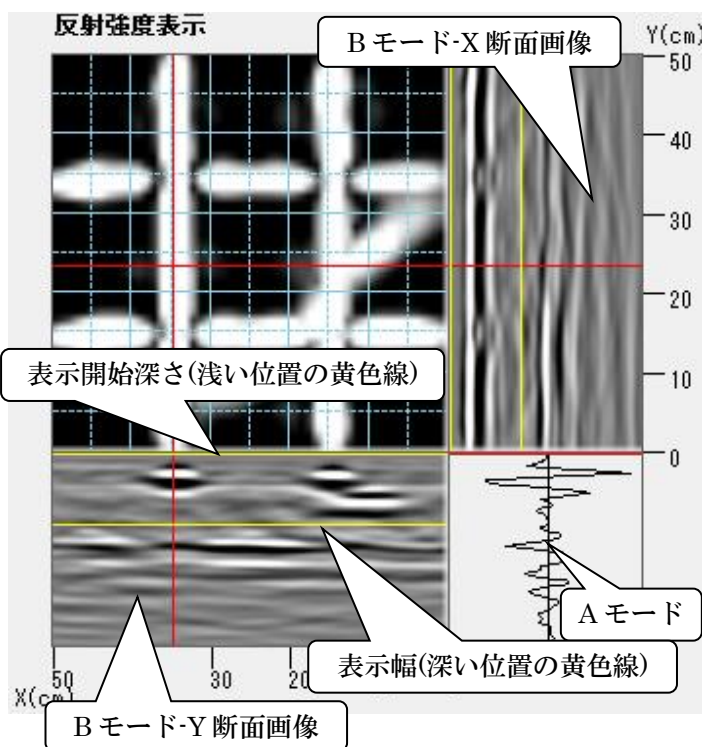
表示開始深さ	処理結果をスライスする開始深さを設定します。 ここから表示幅の間の処理結果を表示します。
表示幅	処理結果をスライスする深さの幅を設定します。 表示終了深さではありませんので注意してください。
感度	処理結果の振幅倍率を変更します。
コアサイズ	コアイメージのサイズを設定します。
比誘電率	解析時に使用する比誘電率の値を設定します。 変更中は赤字になります。 設定後、「比誘電率更新」ボタンで更新する必要があります。 ビューワでは操作できません。
カーソル位置	カーソル位置を表示します。

※スクロールバーの右側、左側をクリックしても操作できます。

※スクロールバークリック後、キーボード矢印でも操作できます。

4.1 反射強度表示部

表示範囲内のデータを反射強度に応じてモノクロ表示します。



原点は右下で、横軸がX軸、縦軸がY軸となります。カーソルは赤線で、表示深さ設定は黄線で表示します。

画像上のドラッグ操作に合わせてカーソルが移動します。断面画像はカーソル位置のデータを表示します。

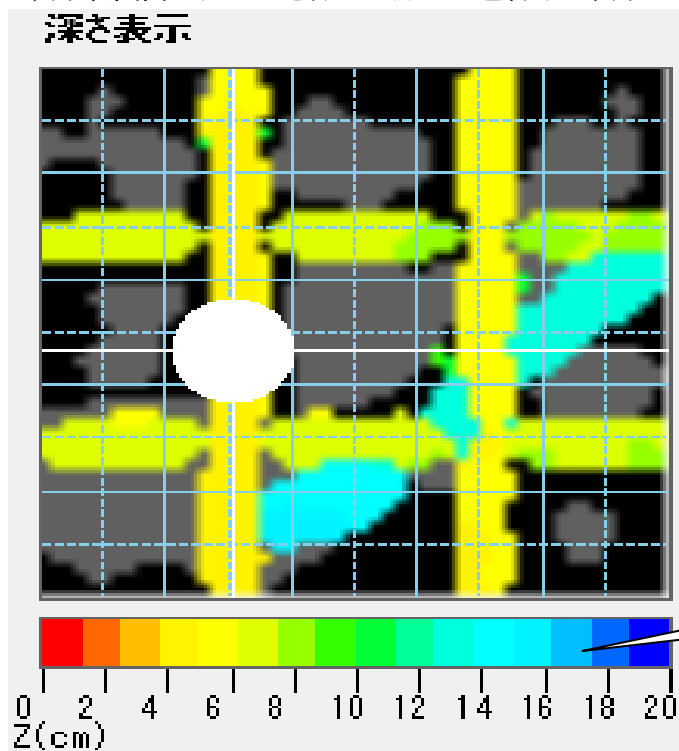
Aモードはカーソル交点部のデータとなります。

※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

4.2 深さ表示部

表示範囲内のデータを深さに応じて色付けし表示します。



深さと色の対応をカラーバーに表示します。コアマークを表示しているときは表示範囲外の反射をグレーで表示します。コアマークを表示していないときは表示範囲外の反射は表示しません。

深さ表示のカーソルは反射強度表示部のカーソルと連動します。深さ表示部でのカーソル操作はできません。

カラーバー

5 メニュー構成

V	メニュー構成		内容	
	ファイル	断面データ読み込み	NJJ-200Ex アプリケーションで探査・保存した探査データを読み込みます。	
○		3次元データ読み込み	3D_MAKER200 Win および And のソフトウェアで保存した3次元データを読み込みます。	
		3次元データ保存	解析結果を[r3d7]データで保存します。	
○		終了	ソフトウェアを終了します。	
	解析モード	標準	標準の平面合成画像を表示します。	
		表層	表層部分の空隙(空洞)の合成画像を表示します。	
○	表示	Bモード マイグレーション	ON の時、Bモード表示データをマイグレーション処理結果とします。 OFF の時、マイグレーション前の処理をしていないデータを表示します。	
○		グリッド	ON の時、反射強度表示部、深さ表示部にグリッドを表示します。	
○		コアマーク	ON の時、深さ表示部にコアマークイメージを表示します。	
○		反転	なし	反転せずに表示します。
○			X 軸	横方向に反転します。
○			Y 軸	縦方向に反転します。
○		回転	なし	回転せずに表示します。
○			右 90 度	時計回りに 90 度回転します。
○			左 90 度	反時計回りに 90 度回転します。
○			180 度	180 度回転します。
○	イメージ	クリップボードに コピー	反射強度表示部および深さ表示部の平面データの表示画像をクリップボードにコピーします。	
○		保存	表示している状態で JPEG に保存します。	
○		印刷	報告書形式で印刷します。	
○		設定	保存・印刷内容に、Bモード、Aモード表示の有無を設定します。	
○	ヘルプ	取扱説明書	本マニュアルを表示します。	
○		簡易取扱説明書	測定時の簡易取扱説明を PDF で表示します。	
○		バージョン情報	本ソフトウェアのバージョンを表示します。	

※「V」が○の機能はビューワでも操作できます。

※断面データ読み込みは、NJJ-200Ex アプリケーションにより探査・保存されたデータ専用です。

3D_MAKER200 And アプリケーションで探査・保存されたデータは読み込みできません。

※反転・回転表示の両方に「なし」以外を設定した場合、回転→反転の順で処理します。

※反転・回転しても、表示右下を原点として表示します。

6 3次元データの読み込み・保存

6.1 3次元データ拡張子[.r3d7]について

NJJ-200 を使用して 3D_MAKER200 And アプリケーションで探査、解析、データ保存された拡張子「.r3d7」のデータを「ファイル」－「3次元データ読み込み」より読み込み、表示ができます。また、拡張子「.r3d7」のデータ形式で保存することができます。

*スマートフォン(またはタブレット PC)とパソコンを USB で接続し、スマートフォン(またはタブレット PC)に保存されている「00000000000000.r3d7」データをパソコンに転送してください。
※スマートフォンから直接読み込みはできませんので、パソコンにデータを転送してください。

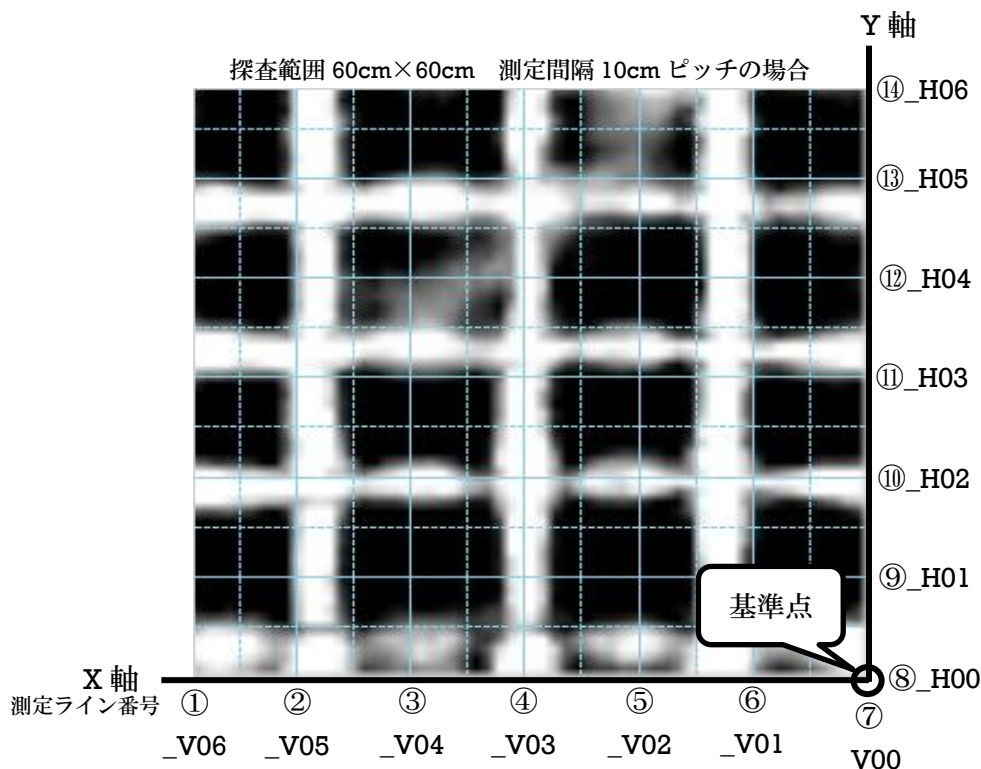
*本ソフトウェアでデータ保存された拡張子[.r3d7]データをスマートフォン(またはタブレット PC)へ転送し、3D_MAKER200 And アプリケーションで開くことができます。転送先はスマートフォン端末の内部ストレージ直下の[NJJ200R3DN]ファイル内の[Data01~Data10]ファイル内に新規フォルダ[000~999]を作成し、その[000~999]フォルダ内に拡張子[.r3d7]データを転送してください。同名のフォルダ名は作成できません。

6.2 3D_MAKER200 And 探査データの位置関係について(V00_H00)

※Vは縦方向の探査データ、Hは横方向の探査データとしています。

※測定する順番に関係なく、X 軸、Y 軸交点右下を基準点とし、各々00 から追番しています。

※V00_H00の探査データは「断面データ読み込み」で開くことはできません。



※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

測定ライン番号	データ番号	測定ライン番号	データ番号
測定ライン番号①	20170323173804_V06.KHS	測定ライン番号⑧	20170323173804_H00.KHS
測定ライン番号②	20170323173804_V05.KHS	測定ライン番号⑨	20170323173804_H01.KHS
測定ライン番号③	20170323173804_V04.KHS	測定ライン番号⑩	20170323173804_H02.KHS
測定ライン番号④	20170323173804_V03.KHS	測定ライン番号⑪	20170323173804_H03.KHS
測定ライン番号⑤	20170323173804_V02.KHS	測定ライン番号⑫	20170323173804_H04.KHS
測定ライン番号⑥	20170323173804_V01.KHS	測定ライン番号⑬	20170323173804_H05.KHS
測定ライン番号⑦	20170323173804_V00.KHS	測定ライン番号⑭	20170323173804_H06.KHS

7 NJJ-200Ex アプリケーションでの探査方法と探査データの保存

7.1 探査時の注意事項

下記注意事項を守ってください。

- ・探査範囲の最大面積は 3 m²(長方形の場合 2.0m×1.5m)です。
※正方形の場合、1.7m×1.7m の 2.89 m²が最大探査面積になります。
- ・測定間隔は縦方向、横方向全て同じ間隔にしてください。
※測定間隔の設定値は 1~30cm (標準は 5cm または 10cm 間隔、表層解析は 5cm 以下が目安)。
- ・探査開始位置は正確に設定してください。
- ・探査箇所、探査・保存データ番号などの情報は、メモなどして保管してください。
(探査箇所、1 番目の探査・保存データ番号、縦、横方向の測定本数、測定間隔)
※3D_MAKER200 And で探査・保存したデータ(V00_H00)は「断面データ読み込み」で開くことはできません。

7.2 探査シートの用意

予め用意した探査シートを平滑な探査面上に固定します。

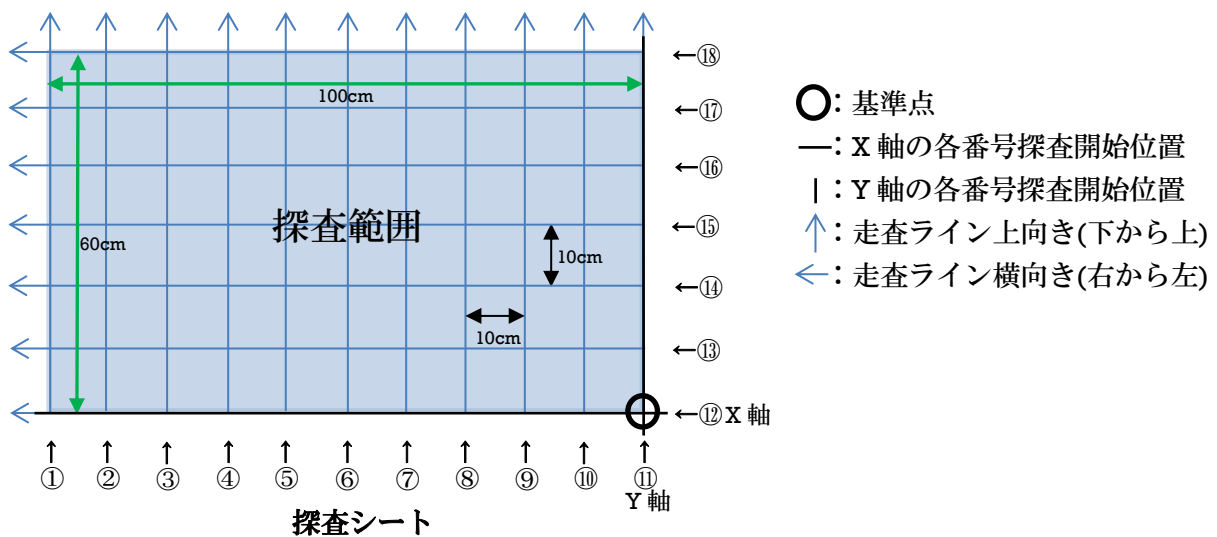
探査シートはビニールシート(絶縁物)、方眼紙(水分を吸っていない状態)などをご使用ください。

※探査面が平滑でない場合、薄いベニヤ板などを敷いて、探査シートを固定してください。

※薄いベニヤ板から探査面までの空隙(すきま)は極力狭くしてください。探査結果に影響します。

例：探査範囲が縦 60cm、横 100cm、測定間隔 10cm の探査シートの場合

(縦方向 11 ライン、横方向 7 ライン、測定間隔 10cm、合計探査ライン数：18 ライン)



走査ライン
(装置前後面の中央に LED があります)

探査開始位置
(左右対称で装置側面に LED があります)

7.3 保存データファイル

- 保存されるデータのファイル名は、スマートフォン本体設定の「年月日時分秒」が反映されます。設定についてはスマートフォンの取扱説明書を参照してください。
※予め、探査データの保存先フォルダ、保存データ番号を設定してください。
- 探査データ保存時のファイル名の内容

2017 11 10 _ 15 20 35 _ 030 . KHS

年 月 日 時 分 秒 データ番号 拡張子

※探査データの保存先は、スマートフォン端末の[内部ストレージ]直下の[NJJ200]フォルダ内の設定している[Data1~Data10]フォルダ内に保存されます。

7.4 探査データ保存

[7.2 探査シートの用意]の探査シートを使用した場合の探査・データ保存方法について

- 予め、スマートフォン本体設定の「年月日時分秒」、保存先フォルダ、データ No を設定します。
※スマートフォンを暫く使用していない。またはネットワークに接続されない環境にスマートフォンがある場合「年月日時分秒」の設定が変更されている場合があります。
※基本的な装置の取扱方法は、装置の取扱説明書を参照してください。
- 縦方向①から⑩、横方向⑪~⑱の 18 本の探査データを連続して探査・保存します。
基本的に、データ No は追番で連続保存してください。
※データ保存については[7.3 保存データファイル]を参照してください。
- 装置を①の走査ライン(上向き)上に置き、探査開始位置を X 軸に合わせます。
※装置の走査ラインは装置前面部中央下と後面部中央下の LED を結んだラインです。
※装置の探査開始位置は装置側面左右の LED を結んだラインです。
- 装置の START ボタンまたは NJJ-200Ex アプリケーションの[スタートアイコン]を押下後、上向きに装置を走査させます。
- ①走査ラインの探査終了位置は、⑱ラインを超えた位置で装置の START ボタンまたは NJJ-200Ex アプリケーションの[スタートボタン]を押下して、探査を終了してください。
※必ず探査終了ライン位置を超えてから探査を終了してください。探査距離が短い場合、ソフトで開くことができません。
- ①走査ラインデータ取得後、NJJ-200Ex アプリケーションの[ファイルアイコン]を押下して探査データを保存します。
- 同時に画面下に表示される、「保存しました(00000000_000000_000.KHS)」で探査保存データの確認ができます。
※[ファイルアイコン]を長押しして「ファイルを開く」をタップすると保存データの確認をすることができます。
- 同様に②から⑩も装置を上向き走査して、各々の探査データを保存します。
- 横方向(左向き)も同様に⑪~⑱の走査ライン上の探査データを連続して各々の探査データを保存します。
- ⑱走査ラインと探査開始位置を Y 軸に合わせ、START ボタンまたは NJJ-200Ex アプリケーションの[スタートボタン]押下後、装置を横向き(左向き)に走査させます。
- 左向き方向に装置を走査させ、探査ライン①を装置の探査開始位置が超えた位置で START ボタンまたは NJJ-200Ex アプリケーションの[スタートボタン]を押下して、探査を終了し

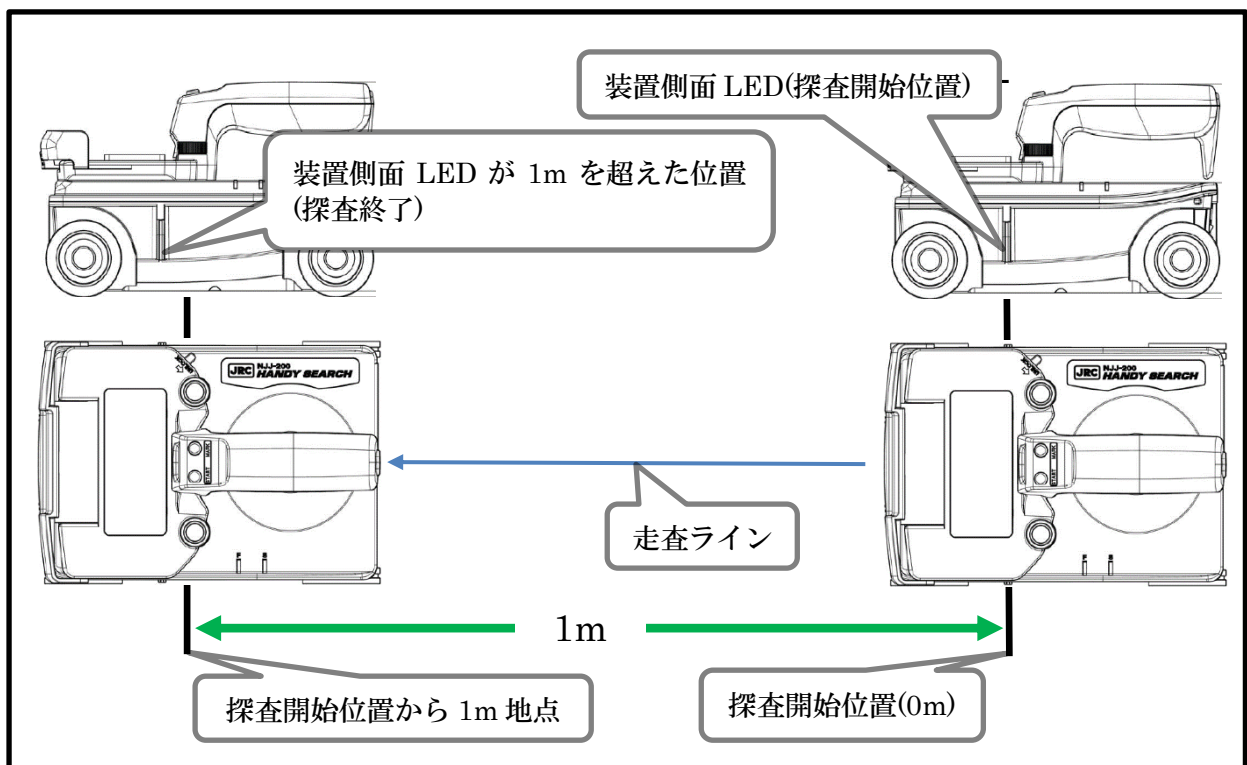
ます。

- NJJ-200Ex アプリケーションの[ファイルアイコン]押下して、探査データを保存してください。
- 合計 18 本の探査データがファイルに保存されていることを確認してください。
- 以上で探査は終了です。

※合計 18 本の探査データにおいて、誤って探査したことにより、データの探査距離が不足していたなどの間違いがあった場合、その探査ラインを間違いが無いように再度、探査・保存してください。パソコンで再度取得したデータファイル名を、誤って探査したデータファイル名に変更することで、探査データの入れ替えができます。

- 探査・保存データのパソコンへの転送、読み込みは[8. NJJ-200Ex アプリケーションの探査・保存データ・ファイル読込]を参照してください。

※3D_MAKER200 And で探査・保存したデータは「断面データ読込み」で開くことはできません。



8 NJJ-200Ex アプリケーションの探査・保存データ・ファイル読込

8.1 断面データ読込み

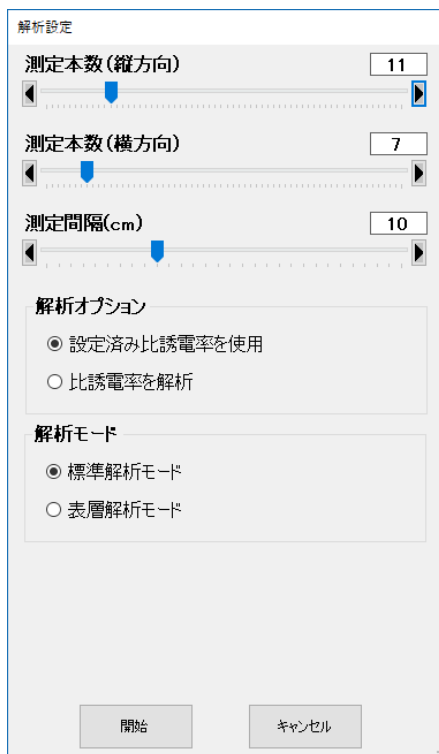
※予め、パソコンの USB ポートに dongle キーを接続してパソコンに認識させます。

※スマートフォンとパソコン間での探査データの移行は、USB ケーブルを接続してください。

※3D_MAKER200 And で探査・保存したデータは「断面データ読込み」で開くことはできません。

※探査データの保存先は、スマートフォン端末の[内部ストレージ]直下の[NJJ200]フォルダ内の保存した[Data1~Data10]フォルダ内にあります。

※スマートフォンの内部ストレージ直下の「NJJ200」フォルダ内に保存された探査データは直接読込み出来ません。パソコンのマイドキュメントなどにファイルを作成して探査データをパソコンに移行してください。また、探査データが破損する場合がありますので、その他のフォルダへ探査データのバックアップをお勧めいたします。



- ①メニューの「ファイル」－「断面データ読込み」をクリックします。「断面データを選択」画面を表示しますので、予めパソコンに移行した場所のファイルを選択してください。
- ②1 番目に探査・保存したデータ（探査範囲の左下から右上に向かって探査したデータ）を選択して「開く(O)」をクリックしてください(1 番目の探査データをマウスでダブルクリックして開くこともできます)。
- ③1 番目のデータ読み込み時、「解析設定」画面を表示しますので、各項目を設定してください。

例) 測定本数_縦方向 11 本、測定本数_横方向 7 本
測定間隔(cm)10cm の場合

解析設定の各スクロールバーおよびキーボード矢印を使用して測定本数(縦方向,横方向)と測定間隔を設定します。

- 測定本数(縦方向)：11
- 測定本数(横方向)：7
- 測定間隔(cm)：10

• 解析オプション

-設定済み比誘電率を使用

探査データ保存時に設定していた比誘電率を使用して解析します。

-比誘電率を解析

探査面の比誘電率が不明な場合、解析オプションの「比誘電率を解析」を選択してください。解析結果より目安としての値を算出し、合成画像を表示します。

※「比誘電率を解析」の解析性能は、アプリケーションがあくまで目安として表示した値です。装置や探査データに大きく左右されます。正確な深さが必要な場合は、正しい比誘電率となるように、スクロールバーで比誘電率の値を調整してください。

※同個所を 3D_MAKER200 And で探査・解析された「比誘電率解析値」と異なることがあります。スクロールバーで配筋状態が最も見やすい値に調整してください。

• 解析モード

-標準解析モード

標準の解析結果を表示します。

-表層解析モード

タイルなどの浮き(表層の浮き)や表層の空隙(空洞)の探査結果を画像合成する機能です。

※[8.3 表層の空隙(可視化)合成画像]を参照してください。

④設定が終わりましたら、「開始」ボタンをクリックしてください。

「処理中 少々お待ちください。」の後、処理した結果の可視化画像を表示します。

⑤処理した結果の合成画像は[4. 画面構成]コントロール部の各項目をスクロールバーまたはキーボード矢印で調整して、探査判定をしてください。

- [表示開始深さ]
- [表示幅]
- [感度]
- [コアサイズ]
- [比誘電率]

⑥調整された合成画像はデータとして保存することができます。

[8.2 3次元データ保存・読込]を参照してください。

8.2 3次元データ保存・読込

• 3次元データ保存

[8.1 断面データ読込み]の⑤で調整された合成画像をデータとして保存することができます。「ファイル」-「3次元データ保存」を選択すると、データ保存箇所の選択画面が表示されます。任意の「ファイル名」を記入して「保存(S)」をクリックしてください。

「任意のファイル名.r3d7」データとして保存します。

• 3次元データ読込み

「ファイル」-「3次元データ読込み」を選択すると、「断面データを選択」画面が表示されます。拡張子[r3d7]のデータを選択して「開く(O)」をクリックしてください。「任意のファイル名.r3d7」で保存したときの合成画像を表示します。

8.3 表層の空隙(可視化)合成画像

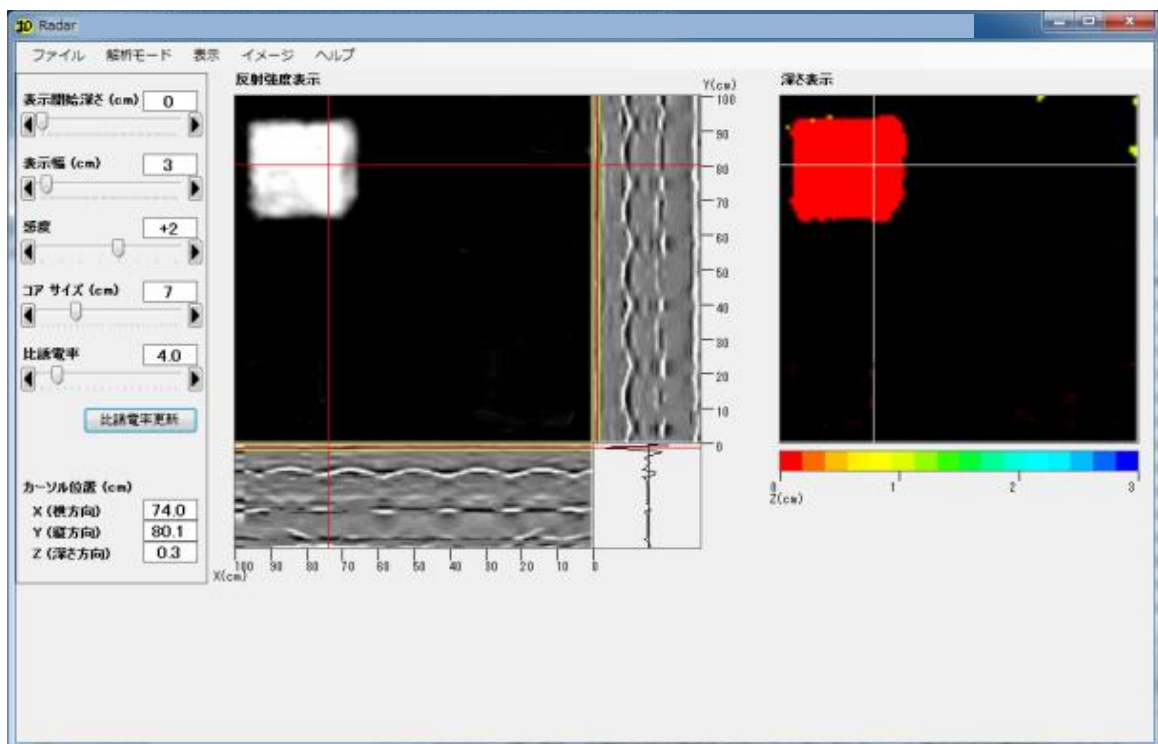
タイルなどの浮き(表層の浮き)や表層の空隙(空洞)の探査結果を画像合成する機能です。

[6.1 3次元データ拡張子[.r3d7]について]より3次元データの読み込み、または、[8.1 断面データの読み込み]から測定本数(縦方向、横方向)、測定間隔を設定して「開始」をクリックします。「標準」で処理した結果の合成画像が表示されます。「表層解析モード」も同様の機能です。

その後、タブの「解析モード」-「表層」の順に選択します。[表示開始深さ 0cm]、[表示幅 3cm]の設定画面に切り替わり表層の(可視化)合成画像を表示します。比誘電率の値を再調整して、探査判定をしてください。

※この「表層」を選択した場合、浅い部分の左に振れる反射波形(空隙、空洞などを強調して(可視化)合成画像を表示しています。従いまして、鉄筋の反射により形成される山形画像の上側と下側のリングング(左に振れる反射波形)の値を計算に含んで結果を表示するため、結果として「表層」解析モードでは、鉄筋が浅い部分に(可視化)合成画像表示されてしまいます。

※鉄筋の配筋状態は、「標準」の解析モードをご使用ください。



試験体によるタイル剥離検出例

9 解析時の注意事項

① 解析モード

-3D_MAKER200 And で解析された拡張子[.r3d7]データ

「標準」「表層」は 3D_MAKER200 And で解析された[.r3d7]データを表示します。

-NJJ-200Ex で探査・保存したデータの「断面データ読み込み」解析をされる場合、

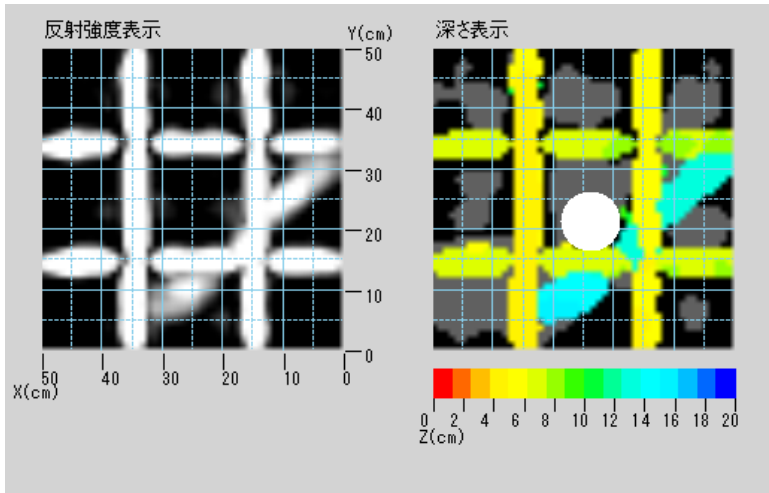
元データより再解析を行いますので、元データの管理をしてください。

② 3次元データ拡張子[.r3d7]は、解析モードにより解析、保存されたデータ形式を保存しております。各探査ラインの探査データは保持しておりません。探査データについては「6.3 次元データの読み込み・保存」を参照してください。

10 イメージの保存

10.1 クリップボードにコピー

「イメージ」-「クリップボードにコピー」を選択します。



「クリップボードにイメージをコピーしました。」-「OK」をクリックしてください。現在表示している「反射強度表示」「深さ表示」がJPEGでクリップボードにコピーされます。

※グリッド、コアマークを設定している場合はコピーされます。

※Bモード、Aモードはコピーされません。

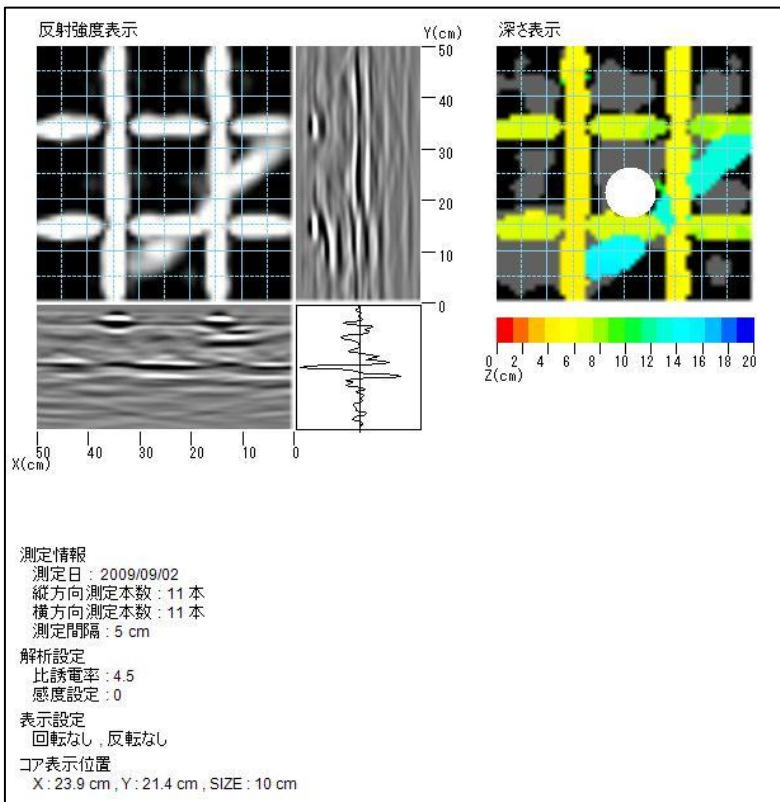
10.2 保存

「イメージ」-「保存」を選択します。

保存先選択画面で任意の場所を選択してください。

「任意のファイル名」で「保存(S)」をクリックすると、JPEGイメージ画像を保存します。

JPEGイメージ画像は「イメージ」-「設定」を選択して[B Modeを印刷]、[A Modeを印刷]、[カーソルを印刷]チェックの有無が反映されます。左のサンプルは、B Mode、A Mode、カーソルを印刷にチェックを入れた状態でJPEG保存しています。



左下に探査データ情報を記載

【測定情報】

- 測定日
- 縦方向測定本数
- 横方向測定本数
- 測定間隔

【解析設定】

- 比誘電率
- 感度設定

【表示設定】

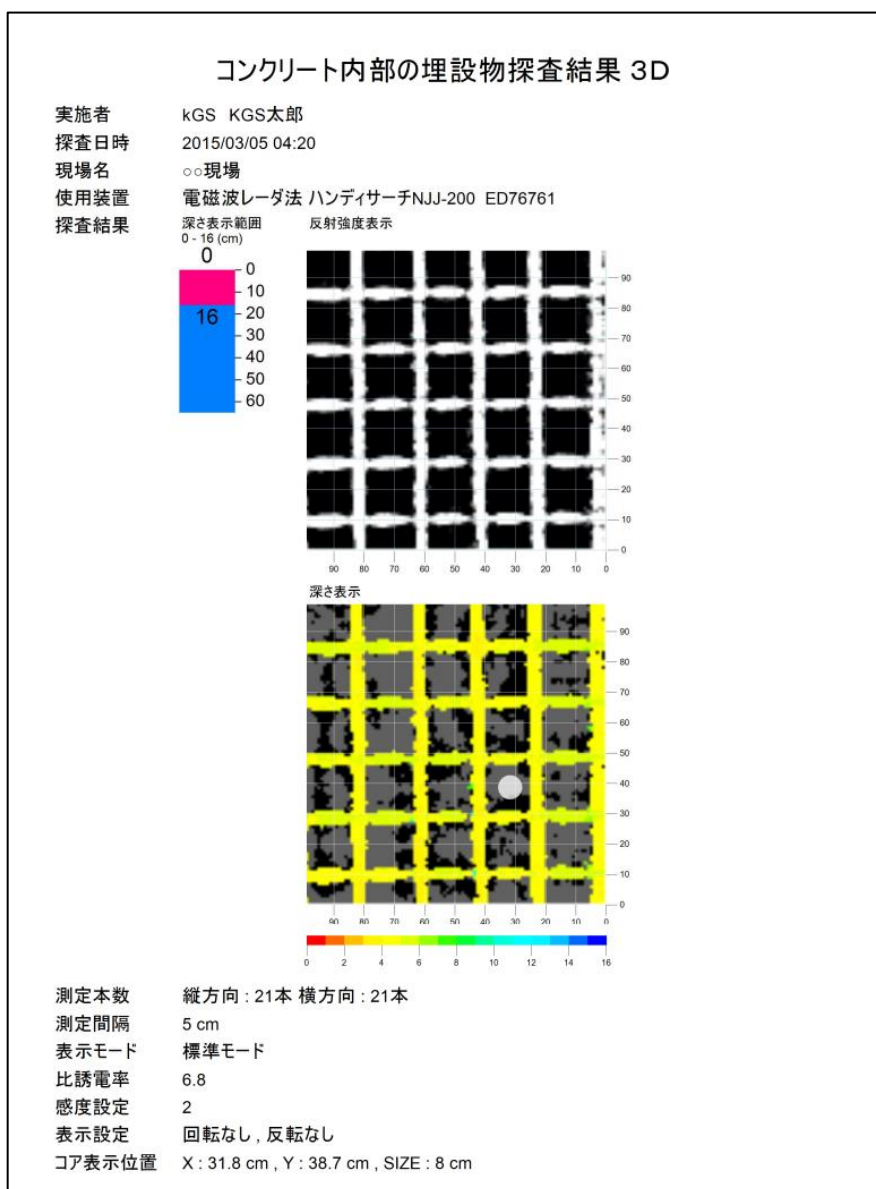
- 表示範囲
- 回転なし
- 反転なし

【コア表示位置】

- X, Y 座標
- コア SIZE

10.3 印刷

印刷は、下記 報告書形式で印刷されます。



【項目】

- 実施者
- 探査日時
- 現場名
- 使用装置
- 探査結果

- 測定本数
- 測定間隔
- 表示モード
- 比誘電率
- 感度設定
- 表示設定
- コア表示位置

※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

11 Windows10 にインストールできない場合の.NET Framework 設定方法

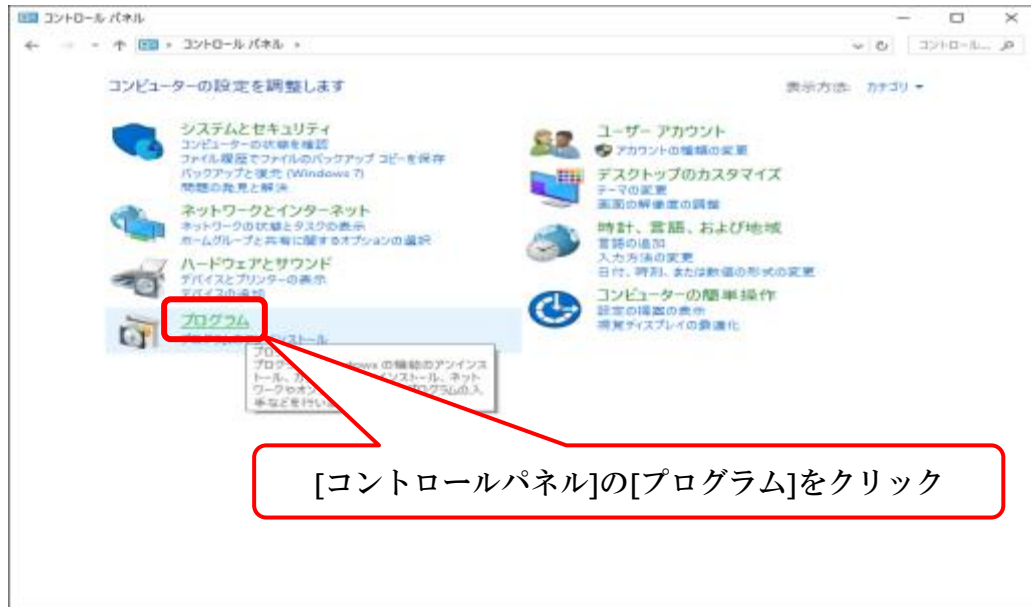
※このソフトは.NET Framework 2.0 環境で動作するため.NET 2.0 を有効化に設定します。

.NET 2.0 の有効化の設定完了後、本ソフトのインストールが可能になります。

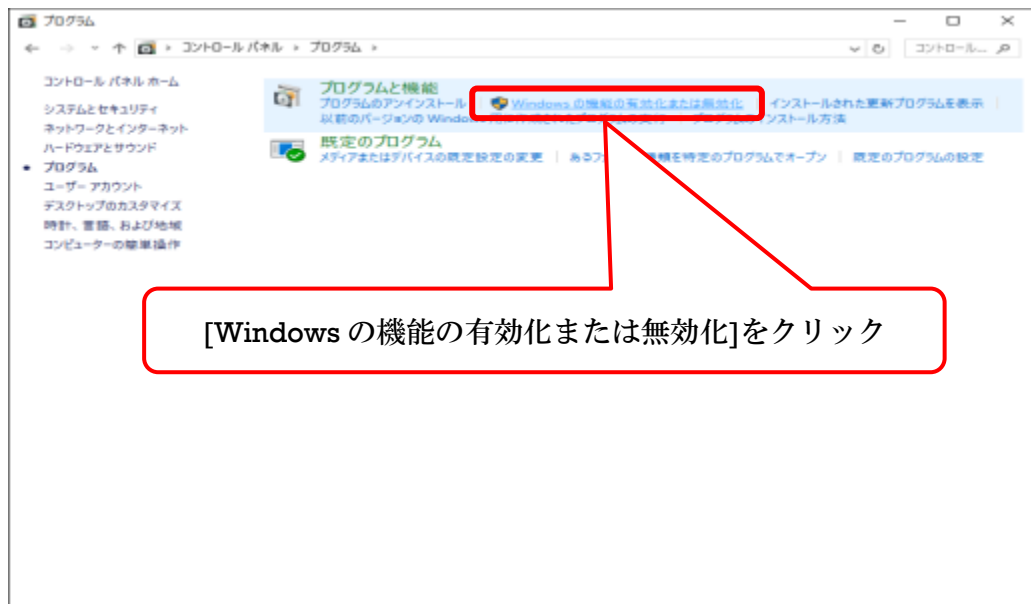
※パソコンの設定条件によっては再起動が必要になります。

① パソコンの[コントロールパネル]を開きます。

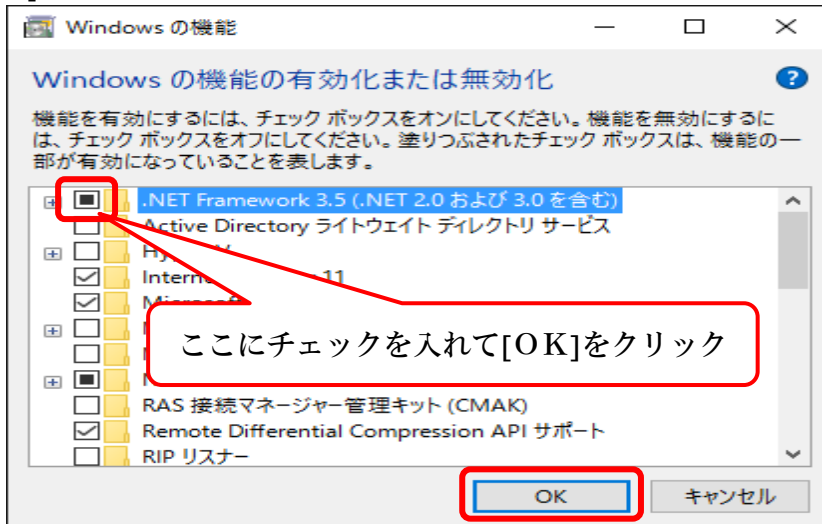
② [プログラム]を開きます。



③ [Windows の機能の有効化または無効化]を開きます。



④ [Windows の機能の有効化または無効化]の設定。

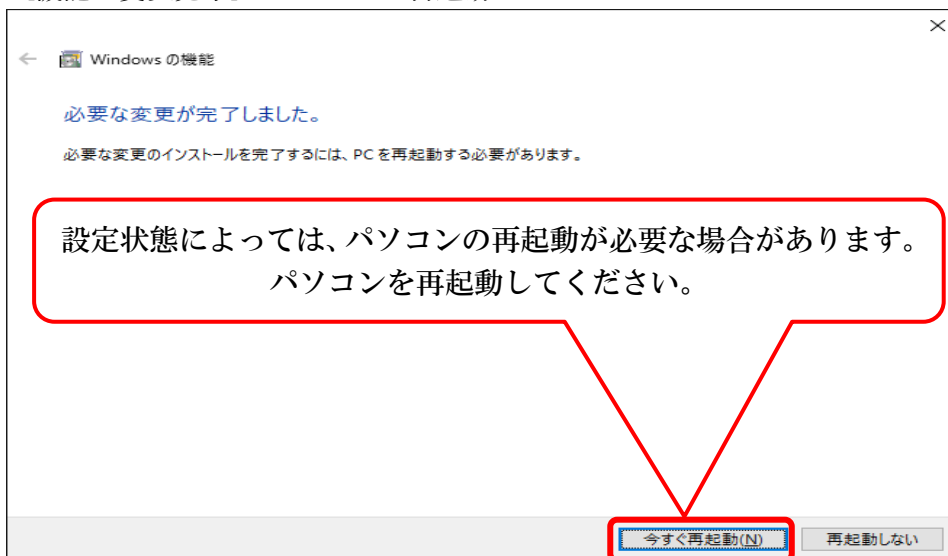


⑤ [Windows Update からファイルをダウンロードする]を開きます。



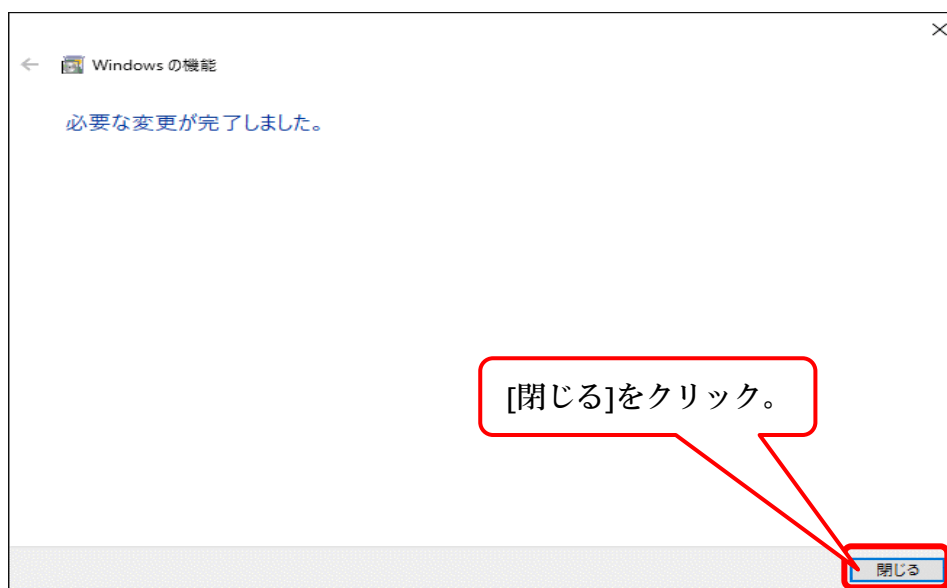
.NET Framework のダウンロードとインストールが始まります。

⑥ [機能の変更完了]とパソコンの再起動。



「今すぐ再起動」が表示されないで必要な変更が完了した場合、[閉じる]をクリックしてください。

(再起動後、表示される場合、同様に[閉じる]をクリックしてください)



以上で.NET Framework の設定は終了です。

[2. インストール]よりアプリケーションのインストールを行ってください。

12 連絡先

株式会社 計測技術サービス

東京本社

住所 〒112-0004 東京都文京区後楽 1 丁目 2 番 8 号 後楽一丁目ビル 8 階

電話 03-6379-0334

FAX 03-6379-0335

大阪営業所

住所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀 2 丁目-1-1 江戸堀センタービル 9 階

電話 06-6225-1088

FAX 03-6379-0335 (2017 年 11 月から受付 Fax 番号を東京本社に統一しました)

メールでのお問い合わせは tokyo_sales@kgs-inc.co.jp までお願いします。

無断転載を禁じます。

この取扱説明書の内容は、製品の改良に伴い予告なく変更することがあります。